



上山小学校「風のたより」

令和6年7月12日（金） 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、
自らの未来を切り拓く児童を育成する



1 学期もあとわずかです！

小学校では2年生が「生活科」の学習でミニトマトを育てます。上山小学校のミニトマトは？苗がしっかりしていて、子どもの頬っぺたのようにパチパチした実がなります。トマトの花言葉は、「感謝」「完成美」だそうです。栄養価の高さや熟すほど赤く美しくなっていくところからきた言葉のようです。子供とかかわることで私たちも多くのことを学ぶことができます。ちなみに、トマトは野菜ですよ！



さて、松尾芭蕉の奥の細道の序文に、「月日は百代の過客にして行き交う年もまた旅人なり」とあります。およそ時の流れは永遠の旅人であることが述べられているのですが、まさにそのことを実感する時期です。旅のひとこまを大切に心に収めながら過ごしたいものです。この1学期様々なことがありました。心を痛めることもありました。想定内にとらえておきます。それは「ピンチはチャンス」という考え方をするように心がけているからです。ジャンプするためには、一度しゃがみます。1学期をポジティブに振り返って次にいかしたいものです。



これから
やさしさを
借りることに
慣れすぎて
借りたまま
返し忘れる
やさしさがあるなら
これから返してごう
気づかれないように

奥ゆかしい日本の文化

七夕を迎えました。また今年も笹や短冊など、子どもたちを取り巻くボランティアの皆様にご準備いただきました。本当にありがとうございます。子供たちや先生方は早速それぞれの願い事を書いて笹に取り付けました。「逆上がりができますように！」「ダンスがうまくおどれますように！」「平和な世界になりますように！」「カメラマンになりたい！」「学校で一番人気のある先生になれますように！」等々、笹はたくさんの願い事で埋め尽くされました。昨年も書きましたが、昔は黒の短冊に墨で恋心を綴ったそうです。日本文化の奥ゆかしさを感じる七夕です。私の願いは一つです。言わずともわかる人にはわかっていただけでしょう。(*^*)



「温故知新」

昔は、「10年ひと昔」といって、世の中は移り変わりが激しく10年も経つともう昔のこととなってしまふことを意味しています。最近のある調査によると、この10年が「5年」：33%、「3年」：19%に感じるとの回答があったそうです。

確かに教育現場においても「5年ひと昔」かなと感じています。ちょっと話がずれますが、1945年に「修身」が廃止され、72年間続いてきた「道徳」が2018年度から「特別の教科 道徳」となりました。ここ5年間でいうと小学校中学年「外国語活動」と高学年「外国語科」の導入、一人1台タブレットの導入によるICT教育、コロナ禍によるこれまで踏襲されてきた学校の当たり前の見直しなどがあります。マスクを付けての授業や半日日程の運動会など100年に一度の大きな転換期を迎えているのです。おそらくこれからも「揺るがぬものの変化」は続いていくでしょう。これでいいのだろうか？「温故知新」の意味を再考したいと思うこの頃です。



☆上山小のHPもご覧ください。学校だより（表）の2次元コードをご利用ください。